

業界の現状及びアクションプラン（案）について

【書店】

（事務局資料④）

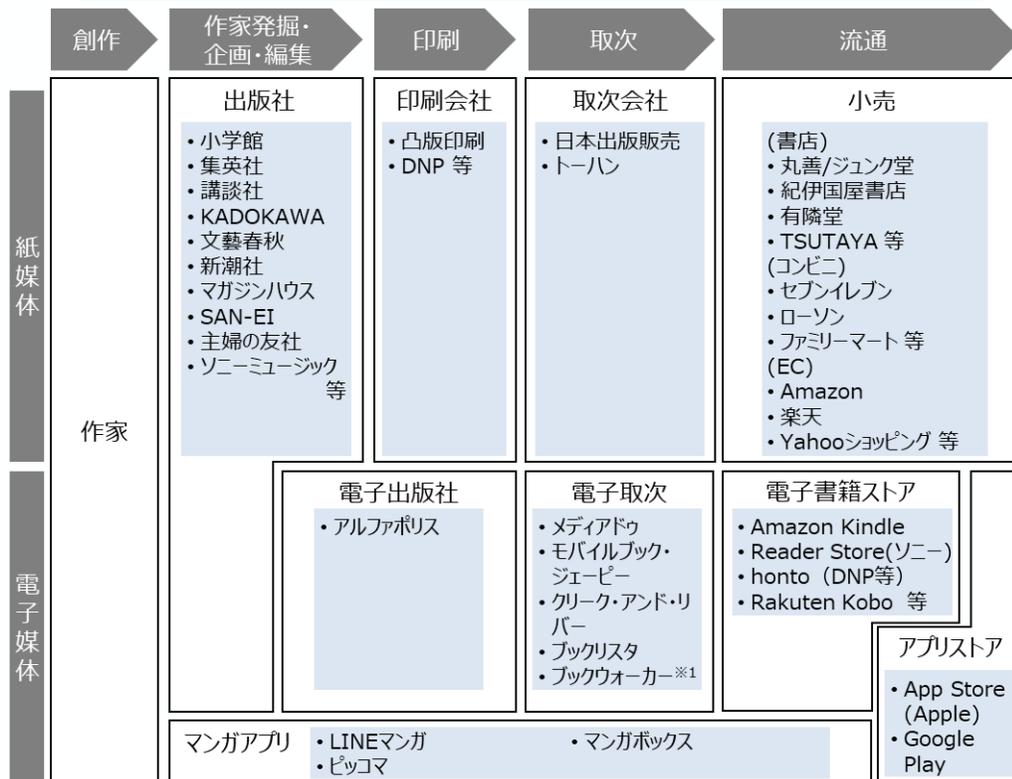
2025年1月17日

I. 業界の現状について

出版産業のバリューチェーン

- 紙媒体は、作家発掘や企画、編集を行う出版社から印刷会社、取次会社を経て小売に流れる構図
- 電子媒体の登場により、電子専門の出版社や取次、電子書籍ストア・アプリというプレイヤーが参入している

出版産業のバリューチェーン



バリューチェーンの特徴

- 紙媒体と電子媒体に大別
 - 電子媒体の場合は印刷業者・(紙の)取次業者が介在しない一方、電子専門の取次会社や電子書籍ストア、漫画アプリ、アプリストアによって流通される
 - 紙・電子共通で、出版社は漫画家の発掘や、作品の企画、連載時の編集を通じて漫画制作に携わりながら、完成した作品を自社が発行する媒体に掲載
- 電子媒体には、紙媒体に適用される再販制度(出版社が最終価格を指定する制度)が適用されないため、値引きやクーポンなど、需要に応じた柔軟な価格設定を行うサービスも存在

日本と諸外国の書店数推移

- 日本の書店数は諸外国と比較して多いが、減少傾向にある。

日本と諸外国の書店数推移



各国の出版物の流通経路と取引形態

- 日本の出版業界では出版社－取次－書店の取次経路を用いた委託販売制度を取っている。
- 欧米では注文買い切り（条件付き返品許容）が主流である

日本と諸外国の出版物の流通経路

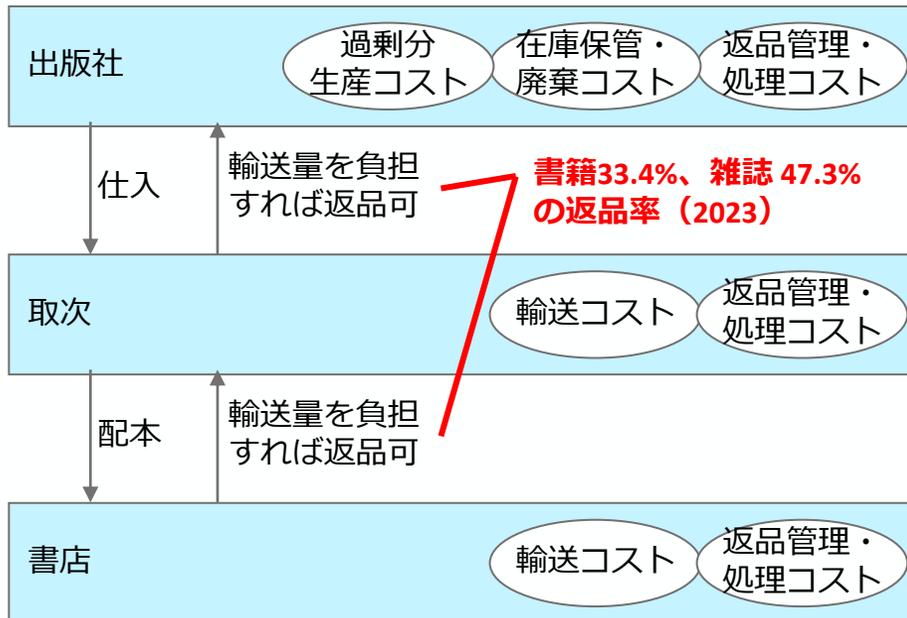
国	主な流通経路	書店の主な取引形態	書籍と雑誌の流通経路
日本	出版社－取次－書店の取次経路	委託販売	同じ
韓国	出版社－取次－書店の取次経路	委託販売	別
フランス	出版社－出版社運営の取次－書店の取次経路	注文買切	別
イギリス	出版社－書店の直取引	注文買切	別
アメリカ	出版社－書店の直取引	注文買切	別
ドイツ	出版社－書店の直取引	注文買切	別

出版業界における返品率の課題

- 日本の出版業界では返品率が書籍33.4%、雑誌47.3%（2023年）と高く、需要に見合わない供給量となっており、出版社・書店などの各ステークホルダーにてコストが生じている。特に近年は輸送コスト等も上昇しており、返品率の低減が求められる

返品率に関する課題

委託配本制度による返品の流れと各者におけるコスト



出版物の返品（返本）の概要

- 委託配本制度においては書店は取次に、取次は出版社に対して、**輸送料を負担すれば、返品が可能**
- 返品率は書籍 33.4%、雑誌 47.3%**（2023年、出版科学研究所）

課題

共通

- 返品時の**輸送コスト・管理コスト**、返品後の雑誌や書籍の**処理**に関するコストが生じる

出版社

- 過剰生産分**について印刷コストの無駄が生じる
- 返品時の**在庫保管コスト、廃棄コスト**が発生

書店

- 燃料費やドライバーの賃金上昇に伴い**返品に係る輸送コストが上昇**したことで、書店経営を圧迫
- 出版社が在庫リスクを取る委託配本制度の下では粗利率は約22%で固定されているが、**返品を避ける流通の仕組みを確保することで配分の改善が可能となる可能性**

高返品率の要因

- 需要と供給のミスマッチ**
 - 書店側は在庫リスクを負わないため、**実際の販売可能数などを十分踏まえた発注**を行うケイパビリティが不足
 - 出版社・取次の**配本が書店のニーズに合わない場合もある**

出版業界におけるRFIDの活用

- 出版業界におけるRFIDの導入によって書籍の在庫管理が効率化され、書店から出版社への返品削減に効果があり、粗利率向上に資するほか、マーケティング情報の取得や万引き防止といった効果も期待される

出版業界におけるRFIDの活用

- RFIDは電波(電磁波)を用いて無線でデータの読み取りを行い、モノの識別や管理を行うシステム
- 出版業界においては、書籍にRFIDタグをつける取り組みが進みつつある

書店におけるRFIDの役割



RFIDの活用が書店にもたらす効果

在庫管理の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 従来の1冊ずつの検品から一括の検品が可能に <ul style="list-style-type: none"> 検品作業に要する時間の大幅削減 リアルタイムで在庫把握が可能 <ul style="list-style-type: none"> 棚卸作業に要する時間の大幅削減 書籍探索に要する時間の大幅削減
返品率の低下	<ul style="list-style-type: none"> 正確な在庫管理ができることで、入荷量を適正な量に調整可能に <ul style="list-style-type: none"> 返品コスト削減の実現
マーケティング情報の取得	<ul style="list-style-type: none"> 売れた本だけではなく、立ち読みの頻度や、どの本がどの程度棚から引き出されたかなどのデータ収集が可能に <ul style="list-style-type: none"> 消費者の行動データを収集することで、ターゲットを絞ったマーケティングの実現
万引き防止	<ul style="list-style-type: none"> 購入手続きを経していないRFIDタグがゲートを通過すると、商品の不正持ち出しを検知できる <ul style="list-style-type: none"> 万引き被害額減少

Ⅱ. アクションプラン（案）について

【アクション】 書店活性化に向けたアクション

現状・課題

- 国内制作のアニメや映像化の源泉を考えるとマンガを原作としているものが多く、流通経路として、書店・ネット書店・図書館がバランス良く存在することが望ましい。
- 一方、雑誌の売上減による収益構造の変化や、雑誌で4割、書籍で3割を超える高い返品率に伴うコスト増、キャッシュレス決済の普及による手数料負担や物流費・人件費等の上昇により書店の経営が厳しさを増し、書店の閉店が続いており、読書離れへの対応、書店への利益配分の拡大等が喫緊の課題。
- こうした中で、出版社は、返本率の引き下げを条件に、書店の粗利率の向上を受け入れる旨を表明しているほか、無線技術を用いたRFIDにより、在庫状況、売れ筋の把握、万引き防止のためのシステムも構築。個別の本を管理することにより、委託と買取の区別を認識し、利益配分の見直しに利用されることも期待される。

アクション

- 10月に案を公表した「関係者から指摘された書店活性化のための課題（案）」を踏まえ、各省連携で「書店活性化プラン」を取りまとめる。
- バリューチェーン全体で返本を減らすため、デジタル化の支援に着手する。
- 書店が利用できる中小企業施策を発信する。